

RPFA2017 の参加報告書

2017/08/24-25 Minya Hotel, Chengdu, Sichuan, China

東北大学 前田大輝

2017 年 8 月 24 と 25 日の日程で中国・成都で開催された日中韓炉物理会議 RPFA2017 に参加する機会を頂いた。自身にとって初の英語による発表というだけでなく、初めての国外訪問ということもあり不安も大きかったが、研究室の先生や京都大学の山中様にお手伝いいただき、パスポートやホテル・航空券の予約などの渡航の準備や、発表資料の準備などをすることができた。

成田から仁川を経由して成都双流国際空港へ移動した。中国語や韓国語はおろか英語にも自信がなく、初の国外移動ということもあり、仁川からは山中様と移動をご一緒させていただいた。山中様と合流した際、私の荷物のあまりの少なさから山中様の荷物チェックが始まり、現地通貨への両替を忘れていたことや中国用の電源コンセントの変換アダプタを用意していなかったことが判明し、急遽仁川空港内で用意することになった。どちらも無事に用意することはできたが、山中様に「前途多難やな」と言われてしまった。お会いして早々ご心配をおかけしてしまい、大変申し訳なく思った。日付が変わるころに成都に到着し、すぐにタクシーに乗ってそれぞれのホテルに移動した。

会議は明悦ホテルという高級ホテルで行われた。私は会場のホテルに宿泊したので、宿泊先から会場への移動の必要がなかったが、空港近くのホテルに宿泊した名古屋大学の方々は、会場への移動の際に利用したタクシーでぼったくられてしまったようだった。会議では最初にオープニングプレナリとして日中韓それぞれの国の先生方による公演が行われた。公演が終わると昼食をはさんでから発表のセッションとなった。RPFA は学生がメインの会議ということもあり、ほとんどが学生による発表であったが、各会場に最低一人はいずれかの国の先生がいらっしゃり、発表後の質疑応答では先生によるコメントと学生同士のディスカッションが行われていた。

私の発表は二日目の午前中のセッションで、会場には 10 名ほどの方々がいらしていた。自分の発表の番になってからは無我夢中で発表してしまい、聞いている方が理解できているか様子を見る余裕がなかった。発表の内容が地層処分の分野であり、私の拙い英語も相まって十分に理解していただけなかったようで、発表後の質疑では質問していただくことができなかった。発表が始まるまでは、質問の内容が理解できなかったらどうしようとかうまく答えられなかったらどうしようといった不安で一杯だったが、質問そのものがなく、英語による質疑応答の経験が得られなかったのは残念であった。自分の英語力があれば、質問を待っている間に補足の説明をすることもできたのだがそれもできず、英語力の無さと必要性を痛感する発表となってしまった。

会場が高級ホテルということもあり、昼食や夕食はもちろんコーヒブレイクの軽食も非常においしかった。中国の四川省は辛い料理が有名と聞いていたのでどんな料理がでる

のかと思っていたが、ホテルの料理は旅行者向けの味付けらしく思っていたより辛くはなかった。しかし、ピーマンとトマトの肉野菜炒めだと思って噛みしめた赤色の野菜と緑色の野菜が赤唐辛子と青唐辛子だったときは、涙が出るほど辛く、中国に来たことを実感した。開催期間中は昼食も夕食も出たため、会場のホテルに宿泊していた私は最終日の最終セッションが終わるまでホテルから一度も出ることなく過ごしていたが、最終セッションが終わった後、山中様のお誘いで三国志に登場する劉備の墓を観光することができた。劉備の墓は丁重に祭られており、その建造物や霊園は非常にきれいで幻想的なものだった。

今回 RPHA2017 で発表する機会を与えてくださった研究室の岩崎先生と相澤先生に対して心より感謝いたします。また、現地への移動や現地での生活を助けていただいた京都大学の山中様にも心より感謝いたします。最後に RPHA2017 にご尽力され、学生である私にこのような貴重な場で発表する機会を提供してくださいました日本原子力学会炉物理部会をはじめとする関係者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



写真1 開会の挨拶



写真2 ホテルでの昼食

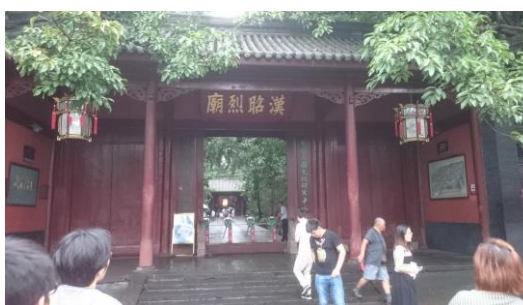


写真3 劉備の墓